

【 玖珠町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

（1）領域・観点別

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県・全国を上回っているが、そのほかの領域では県・全国を下回る結果となった。

（2）正答数分布グラフ

- 正答率 80%（10 問）以上の割合は 30.1%（県 36.6%，全国 34.2%）であり，県・全国平均より低い数値となっている。
- 正答率 50%以下（6 問以下）の割合は，33.5%（県 28.8%，全国 31.4%）であり，町の目標は達成できていない。また,県及び全国平均に対しても高い数値となっている。

（3）設問別正答率

- 全 13 問中 4 問（漢字を書く問題，比喻や反復などの表現に気づく問題，文章の種類とその特徴について理解する問題）が県・全国平均を上回っている。
- 13 問中 5 問（資料を活用して,自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題，筋道の通った文章となるように構成や展開を考える問題，文章を読んで理解したことをもとに,自分の考えをまとめる問題，情報と情報を関連付けたり,必要な情報を使って自分の考えをまとめたりする問題）が県・全国平均を下回っている。

小学校：国語

1. 低学力層への支援

- ・教科書の読み取り（音読）や言語事項の基本的な内容の確実な定着を図る。
- ・朝読書等を利用して，学年に応じた読書活動を行い，語彙力を高める指導を行う。

2. 「情報の扱い方に関する事項」への対応

- ・物語文や説明文の学習において，文章事実と自己の考えやその理由などと関連付けた読み取りができる指導を行う。

3. ICT の効果的な活用

- ・授業の中で学習アプリを活用して，漢字の読み書きや言語事項の基礎的な学習内容の定着を図る。
- ・情報の整理分析において，デジタルホワイトボードアプリを使用して，構造的に情報を整理分析する力を培う。

4. 図書館の効果的な活用

- ・学年で必読の書籍や学習単元に関連する書籍を読む指導を実施し，様々な書籍に触れることで，語彙力や読解力を高める。

【 玖珠町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

（1）領域・観点別

○領域別に見るとどの領域も全国と同程度であるが、「データの活用」は2ptほど下回っている。

（2）正答数分布グラフ

○正答率50%以下（7問以下）の割合は28.8%であり、県平均（32.2%）及び全国平均（35.9%）よりも低い数値となっている。

○正答率80%（13問以上）の上位層の割合は22.3%（県22.2%，全国23.0%）であり、割合は同程度である。

（3）設問別正答率

○16問中5問（立方体の体積を求める問題、数を四捨五入して概数で表す問題、単位分数の個数に着目して、数直線上の1を表す目盛りを捉える問題、単位量当たりの大きさを求める除法の式を理解して、混み具合を判断する問題）が県平均及び全国平均を上回る結果となっている。

○16問中6問（体積の意味を理解する問題、割合の3つの量が正しく表されている図を選ぶ問題、図形を構成する要素に着目して、調べたい数量を数や言葉を用いて記述する問題等）が県・全国平均を下回っている。いずれも、図や表などの情報をもとに、短文や数や言葉を用いて記述する問題の正答率が低くなっている。

小学校：算数

1. 低学力層へのきめ細かい支援

- ・低学力層の児童に対して、個別指導や少人数指導を積極的に実施し、一人ひとりの課題に合わせた支援を行う。
- ・家庭学習の習慣づけを支援し、学習計画の作成や時間管理の方法を指導する。

2. 基礎・基本の定着

- ・町独自で実施している算数確認テスト（年4回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
- ・町確認テストや問題データベースの活用で定着を図る。
- ・単元のまとめとして、図や表などの情報をもとに、式・数や短文を用いて記述する問題に取り組む。

3. ICTの効果的活用

- ・デジタルドリルの効果的かつ積極的な活用を図り、基礎的な内容の定着を図る。
- ・chromebook及びその他のICT機器の積極的な活用を行い、各学校の取組を共有化していく。

【 玖珠町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

（1）領域・観点別

○言葉の特徴や使い方に関する事項は県・全国平均正答率を 6pt ほど下回っている。問題形式では記述式が県・全国平均を 3pt 上回っている。

（2）正答数分布グラフ

○正答率 50%未満(7 問以下)の生徒の割合は、33.9%（県 27.2%，全国 26.6%）であり、県平均及び全国平均を上回っている。

○正答率 80%以上(12 問以上)の上位層は、26.7%であり、県平均 33.2%・全国平均 33.5%に比べ低い結果になっている。

（3）設問別正答率

○15 問の中で県・全国平均を上回った問題は、文脈に即して正しく漢字を書く問題、二つの例文を比べながら、擬態語が表している様子と効果を書く問題が上回っている。

○15 問の中で県・全国を下回っている問題は、話合いの中の発言を説明したものを選ぶ問題、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える問題などである。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

1. 低学力層へのきめ細かい支援

- ・低学力層の生徒に対して、個別指導や少人数指導を積極的に実施し、一人ひとりの課題に合わせた支援を行う。
- ・基礎的な知識や技能の定着を図るために、反復学習やデジタルドリル学習の徹底を行う。
- ・家庭学習の習慣づけを支援し、学習計画の作成や時間管理の方法を指導する。

2. 基礎・基本の定着

- ・基本的な言語事項（言葉一つひとつの意味や使い方）については単元の中で辞書等を使い丁寧に学習していく。また、単元の中で語句の意味や使い方を学習する時間を設定した単元構成を行う。
- ・読解力の充実に向けて、学校司書と連携し組織的に読書習慣の定着を図る。
- ・文章の叙述をもとに捉えることができるように、教科書の読み取りとその文章事実に線を引くなどの根拠づけの指導を行う。

3. ICT の効果的活用

- ・端末アプリの効果的かつ積極的な活用を行い、補充学習や chrombook の持ち帰り学習の定着を図る。
- ・自分の考えを確かなものにして説得力のある文章にするために、効果的に生成 AI（Gem）を活用する。

【 玖珠町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

（1）領域・観点別

○図形領域については、県・全国平均正答率から 15pt 下回っている。その他の数と式、関数、データの活用・全国平均正答率を下回っている。

○知識・技能、思考・判断・表現の観点では、どちらも約 5pt 下回っている。

（2）正答数分布グラフ

○正答率 50%未満(7 問以下)の生徒の割合は、52.5%で半数を大きく超えている。

○正答率 80%以上（12 問以上）の上位層は 22.7%であり、県・全国に比べて低い結果になっている。

（3）設問別正答率

○16 問中、県・全国平均を上回った問題は、反比例の関係を表す表の特徴を問う問題、箱ひげ図から読み取れる内容を問う問題等の 4 問題であった。

○16 問中、県・全国を下回った問題は、2 直線が平行になる条件を問う問題、三角形の合同をもとにして証明する問題等の 11 問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

1. 低学力層へのきめ細かい支援

- ・授業形態の工夫等を通して、習熟度別指導や個別指導の充実を図る。
- ・小学校からの円滑な接続を図るため、校種間連携を図り、小学校との連携を強化する。
- ・学校運営協議会が主催する「未来塾」と連携し、低位層へのフォローを丁寧に行っていく。
- ・家庭学習の習慣づけを支援し、学習計画の作成や時間管理の方法を指導する。

2. 基礎・基本の定着

- ・デジタルドリルを活用して基礎的な内容の定着を図る。また、町確認テスト（年 4 回）にて基礎的な内容の定着と状況把握を行い、授業改善に生かす。
- ・校内での教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流を実施する。

3. 組織的な対応

- ・数学科の授業における系統的な指導を充実させる。
- ・数学科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり継続的に取り組む。

4. ICT の効果的活用

- ・端末アプリの効果的かつ積極的な活用を行い、補充学習や chrombook の持ち帰り学習の定着を図る。
- ・生成 AI（Gem）を活用して、生成 AI に問題の解き方のヒントをもらったり、関連問題・発展問題を作らせて解いたりするような活用を行う。

【 玖珠町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

（1）領域・観点別

○聞くことは県・全国平均正答率と大きく変わらないが、読むこと・書くことは0.7pt下回っている。

（2）正答数分布グラフ

○平均 IRT スコアは441。県平均484，全国平均499であり，大きく下回っている。

○IRT スコア「2」が県平均及び全国平均より約20pt多く，IRT バンド「4」は，県平均及び全国平均より約10pt低い結果となっている。

（3）設問別正答率

○全15問中県平均及び全国平均を上回った問題は，日常的な話題について必要な情報を聞き取る問題の1問。

○全15問中8問は，県平均及び全国平均を下回っている。特に，与えられた情報に基づいて，昨日の出来事を説明する英文を書く問題，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，まとまりのある文章を書く問題など20pt以上下回っている問題もみられる。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

1. 低学力層へのきめ細かい支援

- ・単語の発音，意味，単語を書くなどの練習を授業始めに行う。
- ・語彙文法などの知識を定着させ，単元ごとに単語テストを設ける。
- ・自主学习用の単語プリントやフォームでの練習問題を毎単元ごとに実施する。

2. 基礎・基本の定着

- ・情報を整理・抽出する「読み」のトレーニングやリスニングとライティングの統合的スキル（聞く→書くの繰り返し）の育成を行う。
- ・発音を聞く学習で，話題を把握した上で，意見とその理由，問題提起とその解決策の提案等，文章の構成を意識して英語の音声を聞くように指導する。

3. ICTの効果的活用

- ・AIドリルを活用して，基礎文法の定着と活用練習を行う。
- ・生成AI（Gem）を活用して，生成AIに発音を聞いてもらい添削してもらう。作成した英文の添削をするなど効果的に活用する。

【 玖珠町 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調）

1 調査結果の概要

児童質問調査

【ICT 活用能力と授業での実践】

ICT（PC・タブレットなど）の活用頻度と児童の操作スキルの高さは特徴的な強みとなっている。5 年生までの授業での ICT 使用機会が高い。文章作成・情報収集・情報整理・プレゼン作成のいずれの項目においても非常に高い結果となった。総合的な学習の時間での ICT 活用も極めて高い。

【主体的な学びと協働学習】

授業における協働性や主体的対話の姿勢が育っている。友だちとの対話を通じた思考の深まりや協力した課題解決、学級会を通じた解決、自己目標の設定など、他者と関わりながら学ぶ姿勢が定着している。

教科別では算数に対する得意意識や好感度が非常に高く、生活への活用意欲も高い結果となった。

【良好な生活習慣と自己肯定感】

朝食摂取や規則正しい起床など基本的な生活習慣が整っている。自己肯定感や教師から認められている、将来の夢を持っている、他者貢献意欲、地域社会への貢献意欲はいずれも高く、情緒的に安定した環境で健やかに成長していることがうかがえる。

【今後の課題と留意点】

スマートフォン等の利用時間について、平日における動画視聴や SNS などの利用時間は、長時間利用している児童の割合が高い傾向にある。

読書および活字離れについては、学校図書館の利用や新聞の購読・読書率が低く、活字に親しむ機会の拡充が必要。

国語への意識については、算数に比べ、国語が得意・好きと答えた割合が相対的に低く、言語能力や読解力の底上げが必要である。

生徒質問調査

【生活習慣・学校生活と自己肯定感】

基本的な生活習慣においては、朝食を毎日食べている割合が県・全国を上回っており良好である。また、学校図書館の利用率は、県・全国を大きく上回る結果となっており、読書環境の積極的な活用がうかがえる。学校生活への楽しさや友人関係への満足度も高く、全般的に良好な人間関係が築かれている。

一方で、「同じ時刻に寝る・起きる」といった就寝・起床リズムについては県・全国を下回っている。自己肯定感や多様性の受容や議論の安心感に関する項目では、県・全国を下回っており、心理的安全性や個の尊重に関する配慮が課題と推測される。

【ICT 機器の活用と学びの深まり】

授業における PC・タブレット等の使用率は、県・全国を上回っており、文章作成や情報検索、英語授業でのキーボード入力といった操作面・活用スキルは非常に高いレベルにあると言える。

しかし、集めた情報を図表等で整理する能力や、伝わるように資料や文章の構成を工夫して発表する姿勢、学んだことを次の学習や生活に結びつけて考える力など、ICT をツールとして用いた主体的・発展的な学習活動や協働的な学びについては、今後の課題といえる。

【教科別（国語・数学・英語）の学習意欲と課題】

国語は「得意」「好き」が大きく上回り、指導内容の理解度や成果の還元も含めて極めて高い肯定感を示している。

数学・英語については、数学・英語は「好き」や「得意」という質問については低迷している。特に数学における粘り強い問題解決態度や英語の将来的な活用意欲、日常的な使用機会の不足については、県・全国を下回っている。

2 玖珠町の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

1. 生活習慣の改善と「アウトプット型」読書活動による基盤づくり

（1）メディア利用ルールの見直しと規則正しい生活リズムの定着

○小学校の課題である平日メディアの長時間利用や、中学校で見られる就寝・起床リズムの乱れを改善するため、PTAや家庭と連携したルールづくりや「ノーメディアデー」などの取組を推進。

（2）読書環境の整備とICTを掛け合わせた読書の質の向上

○小学校では朝読書の定着や図書の選書見直し等で図書館利用を促すとともに、「おすすめ本の紹介・対話活動」を取り入れ、活字に触れつつ思考力・表現力を高める工夫を行う。

2. 高いICT活用能力を生かした「主体的な学び・表現活動」への質的転換

（1）「探究型・表現型」授業の推進

○端末を単なる情報検索や文章入力だけに留めず、思考ツール（図・表・マインドマップ等）を活用して情報を整理・分析し、伝わるように構成して発表する協働的・発展的な学習活動の強化。

3. 教科の苦手意識克服と、自己肯定感・心理的安全性を高める環境づくり

（1）数学（算数）・英語・国語における学習意欲と達成感の向上

○小学校の国語、中学校の数学・英語に見られる苦手意識を克服するため、スモールステップでの達成感の付与や、粘り強く問題解決に取り組める指導・具体的なフィードバックの徹底。特に英語では日常や将来の活用イメージを持てる指導を取り入れる。

（2）多様性を認め合う安心できる学級・学校づくり

○グループでの対話活動や互いの意見を尊重し合う場面を意図的に設定し、「人と違う意見を言っても否定されない」安心感（心理的安全性）を醸成することで、児童生徒が自身のよさを実感できる自己肯定感を育む。

【 玖珠町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問調査

ICT 環境の整備と日常的な活用について、教員向けの ICT 研修体制やサポート体制が全校で確立されている。児童一人一人の端末利用についても、「複数授業での利用」「自分の考えの集約・発表」「児童間の情報共有」「個に応じた学習」の各項目で、8割の学校が「ほぼ毎日」実施しており、端末の日常的活用が極めて高い水準となっている。

主体的・対話的な学びと授業改善については、他者との情報交換や協働学習、算数における実感を伴う指導、理科での観察・実験を通じた考察など、対話と実感を重視した質の高い授業の実践を行っている。

校内支援と教員間の連携体制については、教員間での問題共有や組織的解決、スクールカウンセラー等の相談体制が機能しており、児童の学ぶ姿勢や落ち着いた学習環境の整備につながっている。

中学校：学校質問調査

学校環境と組織運営の現状については、生徒の学習意欲や礼儀正しさ、居心地の良い施設環境、相談体制の整備においては非常に高い数値を示している。また、教員の課題に対する組織的対応や、ICT を活用した校務効率化、データ等に基づく PDCA サイクルの確立など、働きやすい環境づくりと組織マネジメントが確実に定着している。

主体的・対話的な学びと授業改善については、「自ら課題に取り組む」「協働して解決する」といった主体的な学習態度や、総合的な学習での探究活動、ICT 活用は活発に行われている。

教科指導においても、実生活との関連付けや根拠を持った説明、観察・実験の分析、英語での即興的なやりとりや発表など、主体的・対話的で深い学びを引き出す手立てが実践されている。

2 玖珠町の学校質問調査の結果をふまえて

今後の主な課題

1. 情報活用能力の育成と主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善

組織的な授業改善による授業の質の向上を目指し、児童・生徒自らが課題を設定して、情報収集、整理分析、まとめ・振り返りのプロセスにおいて、教科書の読み取りや効果的に ICT 機器や生成 AI を活用しながら、情報活用能力を育成する授業を積極的に行う。また、GIGA スクール構想第 2 期での ICT 機器の効果的な活用（生成 AI 活用を含む）を全町的に展開させていく必要がある。

2. 家庭学習の充実に向けた学校挙げての取組の強化

家庭学習の習慣化や充実を図る取組を行うことによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。クラウド環境下での Chromebook の持ち帰りによる家庭学習の充実とデジタル教材の利活用を促進する。

3. 学校間の連携の強化

9 年間を通して共通して指導する内容の焦点化（情報活用能力の育成、ICT 機器の効果的な活用）や有効な指導方法の共有と教職員のさらなる指導力の向上を目的に、小中および小学校間の校種間連携を深め、中 1 ギャップの解消を図っていくようにする。さらに、小 1 ギャップの解消に向け、架け橋期の連携充実も同時並行に取り組んでいく。